

博士論文の要旨及び審査結果の要旨

氏名 坪川 麻樹子
学位 博士 (保健学)
学位記番号 新大院博 (保) 甲第 43 号
学位授与の日付 令和 4 年 3 月 23 日
学位授与の要件 学位規則第 4 条第 1 項該当
博士論文名 視床下部過誤腫の子どもの外科治療にむけた家族支援に関する質的研究

論文審査委員 主査 中村 勝
副査 住吉 智子
副査 田中 美央

博士論文の要旨

視床下部過誤腫は、視床下部の先天性の非進行性病変であり、20 万人に 1 人の割合で発症するとされている希少疾患である。第一選択は薬物療法であるが、視床下部過誤腫による笑い発作は極めて薬剤抵抗性であり、薬物治療の効果はほとんど期待できない。2007 年に日本国内で開発され、発表された手術方法に定位温熱凝固術がある。この手術を受ける子どもと家族に有効な家族支援方略は明確になっていない。本研究の目的は、視床下部過誤腫の子どもの母親の心理状況とその構造を明らかにすることで、希少疾患の子どもとその家族への有効な看護支援について示唆を得ることであった。

A 病院に視床下部過誤腫の定位温熱凝固術の目的で入院した子どもの付き添う母親 8 名の内、同意を得られた 6 名を対象とした。インタビューガイドに基づき、半構造化インタビューを実施した。グラウンデッド・セオリーにヒントを得たテーマ分析法である、SCAT (Steps for Coding and Theorization : SCAT) に基づいて分析した。得られた構成概念に基づきストーリーライン、理論記述を作成し、その後構成概念をカテゴリー化、テーマとサブテーマを抽出した。

その結果、母親の心理状況の構造は【代理意思決定の重責】【「普通」の生活への切望】【説明への苦慮】の 3 つのテーマがあり、常にこの間で揺れ動くことを明確にした。また、母親は緊急性が低いこと、笑い発作を止める目的で脳外科手術を子どもに受けさせることに【代理意思決定の重責】を感じていたが、その迷いの払拭は、子どもの発作が消失し、家族の「QOL 向上」と【「普通」の生活への切望】により、後押しされていた。看護師は、母親の心理状況をとらえ、医師からの説明の受け止め方を理解し、そのうえで子どもへの説明方法とともに考え、子どもへの術前準備をする支援が必要であることが示唆された。さらに、術後は、笑い発作の出現や多動行動に関する観察が客観的に記録できるワークシートなどを用いることで、手術をしたことを肯定的に捉えられる支援が必要であることを明らかにした。

審査結果の要旨

学位申請論文は、主査1名、副査2名の計3名で審査を行った。

1. 保健学における研究の価値と貢献

本論文は、日本で開発された定位温熱凝固術を受けた視床下部過誤腫の子どもと家族への支援に着目した研究であり、新規性が高い。また情報が少ない、新規の治療に臨む子どもの親の代理意思決定の重責と苦悩に対する支援を構築する上で重要な知見が得られた研究である。論文趣旨全体の有効性、分析の客観性や論理性など適切に記述され、いずれも秀でており、保健学（看護学分野）に貢献する優れた論文であると判断する。

2. 論文構成と内容に関する審査

本論文は、I. 研究の背景、II. 研究の目的・意義、III. 用語の定義、IV. 文献検討、V. 研究方法、VI. 研究結果、VII. 考察、VIII. 結論、IX. 研究の限界 で構成されており、論文の趣旨を把握するために、これらの内容は十分に詳細に書かれている。また、以下の点を全て満たしている。

- ・タイトルが、論文の趣旨を捉えており明解で簡潔である。
- ・目的と背景が、明解かつ簡潔に記されている。
- ・理論／方法が、正しく論理的であり、客観的に明解に記述されている。
- ・結果が、正当で、図、写真、表が適切であり、客観的・論理的に記述されている。
- ・考察が、正当で客観的・論理的であり、著者の主張や結論を支持するデータが十分である。
- ・結論が、目的に対応して適切に導かれており、記述が簡潔である。
- ・引用文献が、本文中に現れた順に適切に参照されている。
- ・表が、見やすく、数や表現が適切である。
- ・図、写真が、見やすく、数や表現が適切である。
- ・キャプションが、明解で適切である。
- ・書式は、誤字脱字がなく、文体が統一されており適切である。

よって、論文構成およびその内容は学位論文としての要件を満たすものであると判断する。

3. 総括

審査の結果、本論文は博士(保健学)の学位論文として十分な価値を有するものと考えられる。